

日中経済交流研究会新聞

超進化する中国を瞥見

2017年訪中国 in 平湖(浙江省) 小レポート

日 時：2017年11月8日～12日

浙江省の平湖（ピンフー）と杭州を訪れました。上海からも杭州からも車で2時間ほどという交通至便の平湖。そこに十数年前から多くの日本企業が進出しています。5日間の訪中国、進化する中国の現在を見ました。



人件費の高騰

中国ビジネスは人件費の高騰で様変わりしています。かつて月給2万円（日本円換算）だったものが4万円になり、この数年は7～8万円と倍々ゲームのように上昇。上海近郊なら10万円超。円安で為替レートも良くなり、物価の高さを実感します。

さらに人も集まりにくい。「昔は近場に労働者がいたが、いまは四川や雲南など遠方からも。その内陸でも働き場所が増え、慢性的に人手不足」（日系企業幹部）。

日本的経営を導入？

こうした労働事情を背景に、社員を大切にする日本的経営が見られました。見学した金属プレス工場では新年会、誕生日会、社員旅行などが恒例行事に。まるで先進IT企業のオフィスかと思うような、おしゃれな休憩スペースも出現。労働者の募集・定着に心を配っていました。人材確保は大手企業でも課題です。「離職を食い止めるために知恵を絞っている。食事、社内環境、寮など。誕生日プレゼントも欠かさないが中身が悪かったら怒られる。売上達成で臨時ボーナスも出す」（見学先企業の幹部）。

富裕社会？

豊かになった中国。「男はマンションと車がないと結婚できない」という冗談を聞かされました。ここ平湖でも100平米超のマンション（日本円で3000万円クラス）がよく売れるらしい。通勤手段は自転車やバイクだったのが自動車に。150～200万円クラスの日本車も人気。しかしいくら賃金が上がったとはいえ月給10万円（年収120万円）。なぜ高額なものがポンポン売れるのだろうか。企業見学ではそんな中国社会のヒミツにも質問が集中。さて、なぜなのでしょう。中国の奥深さを実感する学びの場、それが訪中国です。

超IT社会へ

IT化の加速にも驚きました。いまや買い物に財布は不要です。スマートフォンで店の「QRコード」を読み取っての支払い。露天や屋台でも通用し、お釣りもない。偽札の心配がつかまとう中国ではすぐに普及しました。自動車業界でもEV（電気自動車）が出現し、これから爆発的に普及すると見られています。「日本の3～5倍のスピードで変わっている。この国のマーケットはまだ大有望」（見学先の日系企業幹部）。

逆に、ITによる監視社会でもあります。グーグル、フェイスブックなど米系ITサービスは基本的に使えない。中国版ラインの「微信」（WeChat）では変な投稿をするとすぐに削除されるという。個人のやりとりが覗かれています。顔認証で判別できる監視カメラを街中に見かけました。「ここにいて逆に本当の情報が入らない」（現地在住の日本人）。

エフエスカンパニー訪問

さて今年の訪中国のホストは「エフエスカンパニー」（大阪市西区）の谷本優氏です。機械工具商の同社はメイン得意先の平湖進出に伴って2004年に中国法人を設立。当初は赤字基調でしたが、新規開拓など営業努力が奏功して黒字化しました。マンションの12階（最上階）にある同社オフィスを訪れました。中国人社員は4人全員が女性。うち勤続10年以上の社員が3人も。その1人は新卒で入り、結婚・出産そして職場復帰を果たしています。彼女たちが今回の訪中国の準備、そして引率にも当たってくれました。細かな旅程の配慮から宴席での気配りまで、谷本氏と中国社員さんたちの厚情で成り立った今回の訪中国。「せっかく皆さんを平湖にお迎えしたのだから、ここに来てよかったと思っていただきたい」と谷本氏。その現地愛に感動しました。おかげさまで有意義な5日間でした。ありがとうございました。

まとめ：坂元鋼材株式会社 坂元正三